

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年1月28日

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------|----------------|------------|
| 事業所番号 | 3970100990 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 ふるさと会 | | |
| 事業所名 | グループホーム 浦戸の里 | | |
| 所在地 | 高知県高知市横浜20-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年11月30日 | 評価結果 市町村受理日 | 平成23年2月14日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた海や山に面した自然環境の中で、総合福祉施設の本館にある展望風呂など広く施設機能を利用するとともに、入居者一人ひとりの気持ちを大切にしながら健康管理や自立支援に取り組み、入居者に豊かな生活を提供していくこと目指している。また、家族との関わりを大切に、こまめな報告や連絡を徹底しており信頼と共に支え合っていく関係を築いている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3970100990&SCD=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--|
| 評価機関名 | 高知県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ |
| 訪問調査日 | 平成22年12月22日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は家並みから離れ自然に恵まれた環境の中、法人系列の特別養護老人ホームやデイサービスセンター、ケアハウスなど一体化した総合福祉ゾーンに立地し、関連施設との各種の合同行事等を通じて利用者同士も交流している。また、日常的に近くの漁港に出かけたり、散歩途中で果物などのお裾分けがあるほか、運営推進会議のメンバーである民生委員を通じ隣の地区民生委員との交流を模索するなど、事業所存在のアピールや地域に溶け込む努力をしている。家族会は結成されていないが、行事等への参加を通じて懇談したり、運営推進会議にも約半数の家族が参加するなど、家族とともに利用者を支え合っていく関係を築いている。今後も、総合福祉施設としてのメリットを活用しながら発展していく事業所として期待が持てる。

自己評価および外部評価結果

ユニット名: やまもの家

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|------|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念に基づき毎年事業計画を作成し、管理者から職員に周知し、職員会やユニット会で実践できているかその都度振り返りケアに活かしている。 | 地域密着型の事業所独自の理念があり、利用者の尊厳の確保など職員会等の機会を捉えて理念を確認しながら、日々のケアに取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 併設施設で週1回行っているいきいき百歳体操、かみかみ体操に参加する地域住民と交流したり、近くの港に散歩に出かけた際に挨拶するなど交流している。 | 併設の総合福祉施設で実施するいきいき百歳体操に参加する地域住民やケアハウスの入居者と交流したり、散歩時に地域住民から声をかけてもらったり、花等のお裾分けをもらっている。保育園児との交流は職員の病休などの事情で見合わせている。 | 近隣に民家が少ない環境の中で地域との交流に努めているが、今後さらに地域との関係づくりに資するため、あらためて地域資源を把握するなどの取り組みを期待したい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議のメンバーである民生委員や家族を対象に、認知症予防に関する研修会を開催している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2カ月に1回開催して、事故報告や行事、取り組み内容など説明し、委員と意見交換し提案をもらっている。通路等への手すりの設置など、可能な限りサービス向上に向けて実践している。 | 事業所から利用者や運営の状況、評価結果について報告し、委員から質問や意見が出され双方向的な会議となっている。家族も全体の約半数が会議に出席し、意見交換に積極的に加わっている。 | 会議では、さらなる運営やサービス向上の取り組みとして、評価結果の対応やその経過報告なども議題として取り上げることが期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 家族の要望を受けて、地域包括支援センターの職員に認知症に関する研修会の講師として協力してもらうなど、協力関係ができています。 | 市の担当課とは定期的な集団指導などを通じた関わりのほか、制度の運用について問い合わせなどしている。また、認知症の理解促進に向けて地域包括支援センターと連携し勉強会を開催するなど、協力関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人の総合福祉施設全体で設置している身体拘束廃止委員会主催の勉強会に参加し、認識を深め日々の関わりの中で人員配置や環境改善を行い身体拘束を行わないように徹底している。 | 法人全体で取り組む身体拘束廃止委員会を中心として職員の理解を深め、拘束のないケアに取り組んでいる。言葉による行動抑制についても、その場面で職員同士で注意し合っている。また、外出傾向のある利用者も自由に行動できるようにしており、外出の際は面会中の家族の協力も得ながら見守り支援をしている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 法人の総合福祉施設全体で設置している個人情報・虐待防止委員会に参加し、認識を深めるとともに、指針に基づき勉強会を行ったり、職員のストレスチェックや入居者のボディチェックを行うなど、虐待の防止に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在、該当者がなく職員全体での取り組みはできていないが各自専門書などで学習している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に契約内容や重要説明事項などに沿って具体的に説明し、心配なことや不明な点を解消しながら、理解と納得が得られるように対応している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日々の関わりの中で入居者から率直な意見を聞くとともに、面会時や運営推進会議の場に出された家族の意見は職員間で共有し検討している。常に入居者や家族が声をかけやすい雰囲気づくりを心がけている。 | 家族会はないが、家族の面会時や運営推進会議、行事に合わせて家族のみで交流する機会を通じて家族の意見や要望を聞いている。意見を受けて玄関の立ち上がり部分に手摺を設置するなど運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 各ユニット会や職員全体会で、運営に関することや改善事項などについて話し合う機会を設けている。また、人事考課シートにも法人や事業所に対する意見や要望を記載する箇所を設け、必要に応じて面接するなど個々の職員の意見を聞く仕組みがある。 | 毎月の職員会やユニット会、各ユニットの代表を加えたリーダー会のほか、日頃から職員とのコミュニケーションを図り、意見等を聞いている。主にケアに関する意見が出され業務の見直しにつなげている。また、入居判定会議には職員も参加している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回の人事考課を通じて職員一人ひとりの勤務状況等を評価し、昇給や賞与に反映し向上心を持って働きやすい職場づくりを行っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員一人ひとりの知識や技術を把握し、個別に指導を行うとともに、毎月法人が開催している勉強会への参加や外部研修会への参加も促している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人内の他のグループホームとの交流や意見交換を行うと共に高知県宅老所・グループホーム連絡会に参加しサービスの質の向上に努めている。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 出来る限りこれまでの生活状況に近づくよう工夫をし、不安な気持ちを解消するなど、和やかな雰囲気になるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 利用開始前に、家族の困っていることや要望を聞き、全職員で家族との思いを共有できる関係づくりに努め、入居後も面会時や電話を利用して常に意見や要望を聞ける環境づくりに配慮している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 家族の要望や入居者に今一番大切なことなどを見極めながらよりよいサービスが実施できるよう検討している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 個々の入居者の能力に応じてできることは行ってもらい、一方的な介護とならないようにしている。また、入居者の気持ちを理解し尊厳の姿勢でサービス提供をしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 日頃から入居者の状況等について、遠方の家族も含めて面会時や便り等で報告するとともに、協力の依頼や家族の都合等に応じて率先して支援するなど、共に支え合っていく関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族の協力を得て、馴染みの場所に出向いたり、友人の面会や電話なども制限することなく関わりを継続してもらうことを大切にしている。 | 隣接するケアハウスの知人と相互訪問したり、友人との手紙のやりとりのほか、買物やドライブの際に自宅近くによるなど、馴染みの関係が継続するよう支援するとともに、家族の協力を得て法事や墓参りなどに出かけている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者の個性を把握し、馴染みの関係づくりや家事作業など数人で行うなど、孤立しないよう配慮しながら支援している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居後も入院先に面会に行ったり、家族が事業所を訪れてくれるなど、関係を継続している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の表情や言動を見逃さず、本人の思いを汲み取り、個々に応じて支援している。 | 入居時のアセスメントを基に、利用者との会話や表情、動作などから思いや意向を汲み上げたり、困難な場合は家族からの情報を得るなど利用者本位に検討している。また、日頃のケアの中で新たな情報収集にも留意し、職員間で共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時に、本人や家族からこれまでの生活歴等を聞き取るとともに、入居後も本人の日々の様子や無意識に出される言葉にも耳を傾け、情報の把握に努めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日誌や申し送りノート、ユニット会などで個々の現状を分析し、本人のできることに視点を向け、その人らしさを見守っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 他職種と連携しながら職員の素朴な意見を参考にしたり、入退院や介護度、心身の状況などモニタリングを行い、柔軟な発想で介護計画を作成している。 | 家族に担当者会に参加してもらうなど、意向等を反映させるとともに、職員の気づきなども踏まえて介護計画を作成している。3カ月毎にモニタリングを行い計画を見直すとともに、利用者の状況の変化に応じて随時見直している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子や新たな気づきなど台帳に記録し、職員間で共有しケアに活かすとともに、介護計画につなげている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 併設施設と連携し、入居者の希望に沿える対応をしたり、本人や家族の状況に応じて通院支援をするなど、柔軟に対応している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の行事に参加したり、近所の魚屋まで食材の買い出しに出かけるなど、地域資源を活用しながら、その人らしく暮らせるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医への定期受診や往診時などに医療面での相談、助言をもらい、適切な医療が受けられるよう支援するとともに、家族とも情報を共有し納得を得られるようにしている。 | 利用者、家族の希望するかかりつけ医に受診できるようにしている。また、家族等の判断で協力医としている例もある。通院介助は家族対応を基本としているが、状況に応じて職員が対応し、受診結果は家族からの報告や病院に聞くなどして把握している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 個々の疾患や既往歴の予知危険症状などについて日頃から看護師の指導を受けるとともに、症状等の変化や気づきなど、その都度看護師に相談し、早期発見と早めの受診を支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には情報提供書により、入居者の特徴や心身の状況などを医療機関に報告するとともに、見舞いの際には病状等の確認や退院後の注意点など、医療関係者と情報交換できるよう関係を作っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居契約時に看取りの指針を説明している。また、重度化した場合に医療面での支援や他のサービスの利用が適切な場合は、次の居場所を一緒に探すなど支援している。 | 入居時に看取りの指針に沿って、利用者、家族に説明し、同意を得ている。これまで看取りの事例はないが、利用者の状況に応じて家族の意向に沿って、医療関係者と連携を図り支援していく用意はできている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 法人全体の勉強会で学習している。また、新任職員研修での徹底やマニュアル集を確認するなど、対応力の向上に努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に3回、火災訓練や防災訓練を実施しており、運営推進会議を通じて民生委員や家族の参加、協力を得ている。 | 隣接する特別養護老人ホームなどと合同で出火元を想定して法人全体で防災訓練を実施している。地域からは運営推進会議のメンバーである民生委員の参加を得ている。運営推進会議で家族から避難経路について意見が出され見直している。非常用の食料等の備蓄は法人全体で準備している。 | 災害時には地域住民の協力が欠かせないため、複合施設とのさらなる連携強化とともに、地域資源の中から災害支援につながる情報を収集するなどの取り組みを期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人としての尊厳保持の大切さを認識し、利用者の目線に立って常に気持ちのよい声かけとなるように心がけている。 | 利用者を人生の先輩として敬い、日頃のケアの中で誇りを傷つけない声かけなどの対応について職員会等で徹底するとともに、場面に応じてその都度管理者から個別に注意を促している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々の関わりの中で、その言葉の奥にあるものや本音の部分など見逃さないようにし、本人から意向等を出してもらおう場面づくりや、うまく表現できない方には選択できるように声かけをしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者との朝の会にて季節の話題を提供したりしながら、できる限り一人ひとりの思いを掘り起こし、実行できるような場面づくりに取り組んでいる。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 外出時の身だしなみや化粧品の購入時などに、本人が嬉しくなるような声かけをしておしゃれが継続できるように支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者の得意料理をその入居者を中心に他の入居者を含めて調理している。また、できあがった料理は併設施設の職員にお裾分けに出かけ、入居者の喜びや意欲向上につながっている。 | 利用者の意向も聞き、敷地内で獲れた野菜や旬の食材を使い、ユニット単位で献立を作成している。利用者の能力に応じて調理の下ごしらえ、配膳や片付けを職員と一緒にしている。職員も同じテーブルでさりげなく介助しながら利用者と同じ物を楽しく食べている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 看護師の指導してもらったり、併設施設の管理栄養士等から助言をもらい、食事、水分チェック表で確認しながら細かなサービスを提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食事やおやつ後に口腔ケアをしている。入居者の残存能力に応じてできることをしてもらっている。また、必要に応じて介助もしている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄自立支援研修に参加し知識を得るとともに、入居者の個々の排泄パターンを把握し、各入居者に応じてトイレ誘導を行い、できるだけオムツの使用を少なくするなど、排泄への自立支援をしている。 | 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、尿意のサインを見逃さないよう観察しながら、できるだけトイレで排泄するよう支援している。また、コスト意識もしながら利用者に応じた排泄用品を使用している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘がちな入居者の排便パターンを知り、極力下剤を使用しないように水分量や寒天ゼリー、牛乳などの飲み物を工夫したり、自然排便の習慣づけなどの支援をしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 個々の希望に沿って入浴時間や入浴日も柔軟に対応している。また、本人の気持ちを尊重しながら併設施設の展望風呂で週3回入浴を楽しんでもらうよう支援している。 | 利用者の意向を大切にした入浴支援に取り組んでおり、希望に沿って夕食後に入浴するなど、柔軟に対応するとともに、事業所の檜風呂や隣接施設の展望風呂の利用など、入浴を楽しんでもらう配慮も行き届いている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 帰宅願望が強い時など職員が付き添い、常に一人にならないように配慮するとともに、深夜帯でも不眠傾向の入居者の話を傾聴して不安を軽減し、安心して休んでもらうよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 医師、看護師、薬剤師の指示や服薬情報を正確に理解し、職員全員で情報を共有できる体制を構築している。また、必要に応じて詳細に経過を記録し、症状の変化にも早く気づけるようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居者に生活の中で可能な限り役割を担ってもらっている。また、買物を兼ねて外出したり、誕生日会など各種の行事やボランティアによる歌と演奏を楽しんでもらうなど、喜びのある暮らしを支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | その日の希望に可能な限り叶えられるよう散歩や買物に出かけたり、家族の協力を得ながら外出支援をしている。 | 毎朝、利用者との会話の中でその日の外出希望を聞き、体調に応じて散歩や買物、ドライブなどに出かけている。車椅子の利用者も法人のリストバスで一緒に出かけている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 入居者の希望でお金を所持してもらったり、買物の際は、本人から支払ってもらうなど見守り支援をしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 入居者の希望に応じて電話ができるよう支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間は海を望み日当たりも良く、明るい雰囲気の中で、季節感を取り入れた絵画の作品や生け花など飾り、居心地の良い環境づくりに工夫している。 | 居間や廊下には行事の写真や利用者の作品で装飾したり、季節の花を活けるとともに、畳の座敷には寄贈された花嫁衣装を架けるなど、家庭的で和やかな雰囲気づくりに配慮している。また、日当たりもよく、昼間の遮光にも配慮するなど、居心地よく過ごせるようにしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングと台所の広い空間の中で馴染みの入居者とおしゃべりを楽しんだり、一人で台所で自由に過ごしてもらうなど、居場所づくりに配慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 思い出がある馴染みの生活道具や本人のこだわりを尊重し、身の回り品を持ち込んでもらうなど、できるだけこれまでの生活環境と変わらないよう工夫している。 | ユニットによって洋室と和室に分れており、それぞれの居室には利用者の使い慣れた家具等を置いたり、家族写真や自作の書道作品などを飾るなど、個性が活かされている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 入居者が職員に掃除や洗濯などの手伝いを声かけしてくれるなど、共同生活の中で自由に行動できる空間と安全な環境づくりに心がけている。 | | |

ユニット名:

やまももの家

| V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) | | | | | | | |
|---------------------------|--|-----------------------|----------------|----|---|-----------------------|----------------|
| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいの | | | | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの | | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない | | | | 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | | 1. ほぼ毎日のように |
| | | | 2. 数日に1回程度ある | | | | 2. 数日に1回程度 |
| | | | 3. たまにある | | | ○ | 3. たまに |
| | | | 4. ほとんどない | | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | | 1. 大いに増えている |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 少しずつ増えている |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | ○ | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | | 1. ほぼ全ての利用者が | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | ○ | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | | | | |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

ユニット名： しらさぎの家

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念に基づき毎年事業計画を作成し、管理者から職員に周知し、職員会やユニット会で実践できているかその都度振り返りケアに活かしている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 併設施設で週1回行っているいきいき百歳体操、かみかみ体操に参加する地域住民と交流したり、近くの港に散歩に出かけた際に挨拶するなど交流している。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議のメンバーである民生委員や家族を対象に、認知症予防に関する研修会を開催している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回開催して、事故報告や行事、取り組み内容など説明し、委員と意見交換し提案をもらっている。通路等への手すりの設置など、可能な限りサービス向上に向けて実践している。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 家族の要望を受けて、地域包括支援センターの職員に認知症に関する研修会の講師として協力してもらうなど、協力関係ができています。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人の総合福祉施設全体で設置している身体拘束廃止委員会主催の勉強会に参加し、認識を深め日々の関わりの中で人員配置や環境改善を行い身体拘束を行わないように徹底している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 法人の総合福祉施設全体で設置している個人情報・虐待防止委員会に参加し、認識を深めるとともに、指針に基づき勉強会を行ったり、職員のストレスチェックや入居者のボディチェックを行うなど、虐待の防止に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在、該当者がなく職員全体での取り組みはできていないが各自専門書などで学習している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に契約内容や重要説明事項などに沿って具体的に説明し、心配なことや不明な点を解消しながら、理解と納得が得られるように対応している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日々の関わりの中で入居者から率直な意見を聞くとともに、面会時や運営推進会議の場に出された家族の意見は職員間で共有し検討している。常に入居者や家族が声をかけやすい雰囲気づくりを心がけている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 各ユニット会や職員全体会で、運営に関することや改善事項などについて話し合う機会を設けている。また、人事考課シートにも法人や事業所に対する意見や要望を記載する箇所を設け、必要に応じて面接するなど個々の職員の意見を聞く仕組みがある。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回の人事考課を通じて職員一人ひとりの勤務状況等を評価し、昇給や賞与に反映し向上心を持って働きやすい職場づくりを行っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の力量に合わせて研修に参加してもらい、職員会で報告してもらっている。また、業務の中で気づいた点について個別に本人がわかるまで説明し納得してもらうようにしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人内の他のグループホームとの交流や意見交換を行うと共に高知県宅老所・グループホーム連絡会に参加しサービスの質の向上に努めている。 | | |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 出来る限りこれまでの生活状況に近づくよう工夫をし、不安な気持ちを解消するなど、和やかな雰囲気になるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 利用開始前に、家族の困っていることや要望を聞き、全職員で家族との思いを共有できる関係づくりに努め、入居後も面会時や電話などの際には安心してもらう対応を心がけている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 家族の要望や入居者に今一番大切なことなどを見極めながらよりよいサービスが実施できるよう検討している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 個々の入居者の能力に応じてできることは行ってもらい、一方的な介護とならないようにしている。また、入居者の気持ちを理解し、尊厳の確保や共に過ごす者同士として言葉使いにも気をつけ支え合っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | <p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p> | <p>入居時の説明の中で、家族に受診や行事の参加、外泊、外出など一緒に支援していくことを依頼している。遠方の家族にも定期的に足を運んでもらう関係を築いている。</p> | | |
| 20 | (8) | <p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p> | <p>入居前によく利用していた量販店等に出かけたり、現役時代の友人との交流など、これまでの馴染みの関係が継続できるよう支援している。</p> | | |
| 21 | | <p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p> | <p>入居者個々の過ごし方について職員は把握しており、その場にはいない場合は入居者同士お互いに声をかけ、誘い合える関係づくりを支援している。</p> | | |
| 22 | | <p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p> | <p>退居後も入院先に面会に行ったり、家族が近況報告に事業所に訪れてくれたりしている。また、時には相談に応じるなど関係を継続している。</p> | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | <p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | <p>日々の表情や言動を見逃さず、本人の思いを汲み取り、個々に応じて支援している。</p> | | |
| 24 | | <p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p> | <p>入居時に、本人や家族からこれまでの生活歴等を聞き取るとともに、入居後も本人の日々の様子や言動から情報の把握に努めている。</p> | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日誌や申し送りノート、ユニット会などで個々の現状を分析し、体調の変化や気づきの中から現状を把握している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 他職種と連携しながら職員の素朴な意見を参考にしたり、入退院や介護度、心身の状況などモニタリングを行い、柔軟な発想で介護計画を作成している。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子や新たな気づきなど台帳に記録し、職員間で共有しケアに活かすとともに、介護計画につなげている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 併設施設と連携し、入居者の希望に沿える対応をしたり、本人や家族の状況に応じて通院支援をするなど、柔軟に対応している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の行事に参加したり、近所の魚屋まで食材の買い出しに出かけるなど、地域資源を活用しながら、その人らしく暮らせるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医への定期受診や往診などに医療面での相談、助言をもらい、適切な医療が受けられるよう支援するとともに、家族とも情報を共有し納得を得られるようにしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 個々の疾患や既往歴の予知危険症状などについて日頃から看護師の指導を受けるとともに、症状等の変化や気づきなど、その都度看護師に相談し、早期発見と早めの受診を支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には情報提供書により、入居者の特徴や心身の状況などを医療機関に報告するとともに、見舞いの際には病状等の確認や退院後の注意点など、医療関係者と情報交換できるよう関係を作っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居契約時に看取りの指針を説明している。また、重度化した場合に医療面での支援や他のサービスの利用が適切な場合は、次の居場所を一緒に探すなど支援している。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 法人全体の勉強会で学習している。また、新任職員研修での徹底やマニュアル集を確認するなど、対応力の向上に努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に3回、火災訓練や防災訓練を実施しており、運営推進会議を通じて民生委員や家族の参加、協力を得ている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人としての尊厳保持の大切さを認識し、利用者の目線に立って常に気持ちのよい声かけとなるように心がけている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者一人ひとりが日常の生活場面で自己決定できるよう声かけ支援をしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者との朝の会にて季節の話題を提供したりしながら本人の意向を優先して支援するよう努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | お化粧したり、外出の際の洋服選びなど、お洒落にも気を配り、本人の納得いくまで付き添い支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 季節の食材を取り入れたり、本を見ながらメニューを決めるなど、食事の準備は自然と役割分担ができています。また、食卓に座る位置も馴染みの関係を大切に、楽しく食事ができるよう配慮している。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養士にもアドバイスをもらいながら栄養が偏らないようメニューの見直しをしたり、食事や水分の摂取状況、体重の増減を確認しながら個々に応じた支援をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアを自分でできることをやってもらい、状況に応じて介助している。夜間の義歯洗浄についても付き添いながら支援している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々の入居者の排泄パターンを掴み、状況に応じてトイレ誘導したり、本人に合ったパッドの使用を検討しながら支援し、パッドがとれた事例もある。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食材の気配りや運動、水分摂取に努め、下剤に頼ることなく自然排便できるよう支援している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週に3~4回入浴できるよう調整しているが、その都度、入居者の気分や体調、時間帯等を考慮し、柔軟に対応している。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 良眠の妨げにならないよう状況に応じてトイレ誘導したり、不眠者に対しては安心して寝付けるまで一緒にお茶を飲むなど寄り添っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬の追加や変更があれば看護師から助言があり職員全員に周知徹底をしている。また、経過観察が必要な場合は細かなことでも記録に残し、症状の変化にも早めに対応できるようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居者に生活の中で可能な限り役割を担ってもらっている。また、買物を兼ねて外出したり、誕生日会など各種の行事やボランティアによる歌と演奏を楽しんでもらうなど、喜びのある暮らしを支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 入居者の意向に沿って可能な限り港までの散歩や短時間のドライブ等に出かけている。また、家族の協力を得て個々に外食や外泊等もしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族の意向に沿って、本人が管理している例もあり、家族同伴での外出時に支払いもしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望に応じて電話をかけてもらったり、県外の親族と手紙のやりとりをするなど支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間は海を望み日当たりも良く、明るい雰囲気の中で、季節感を取り入れた絵画の作品や生け花など飾るとともに、生活音や採光などに配慮しながら居心地のよく過ごせるよう工夫している。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングと台所の広い空間の中で馴染みの入居者同士でおしゃべりしたり、一人で居室で過ごすなど、お互いにストレスがない居場所づくりに努めている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時には本人の使い慣れた家財道具を持ち込んでもらい、安心できる空間づくりや入居者の動きに合わせて配置換えするなど、安全に過ごせるよう支援している。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 危険箇所等に配慮しながら、出来る限り自立を目指したケアにとり組み、否定したり取り上げたりせず、さりげくフォローしている。 | | |

| V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) | | | | | | | |
|---------------------------|--|-----------------------|----------------|----|---|-----------------------|----------------|
| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいの | | | | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの | | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない | | | | 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように |
| | | | 2. 数日に1回程度ある | | | | 2. 数日に1回程度 |
| | | | 3. たまにある | | | | 3. たまに |
| | | | 4. ほとんどない | | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 少しずつ増えている |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | | | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. ほとんどできていない |